社会科（公民的分野）学習指導案

日　時　令和２年５月 29 日（金）公開授業Ⅰ
学　級　岩手大学教育学部附属中学校
　　３年Ｄ組 31 名
会　場　３Ｄ教室
授業者　木村　義輝

１　単元名　第１章　現代社会と私たちの生活　１節　現代社会の特色と私たち

２　単元について

（１）　生徒観

これまで生徒は，社会的事象の地理的な見方・考え方や，歴史的な見方・考え方を働かせながら学習を積み重ねてきた。また，単元全体が問題解決的な学習となるように単元を貫く学習課題を設定して，生徒に学習課題をしっかりと把握させ，その解決への見通しをもたせながら学習を展開してきた。問題解決の場面では，４人グループで協働して調べたり，意見を交換したりする機会を意図的に設定してきたことで，**【知識・技能】**については一定の定着が見られる。しかし，**【思考力・判断力・表現力】**を育成するための，考察や構想（選択・判断），説明，議論等の学習活動を十分に保障してきたとはいえないのが現状である。

各教科や領域の学習では，コンセプトマップや KJ 法などの思考ツールを活用する学習場面を意図的に設定してきたことにより，思考過程を可視化することに慣れている生徒が多い。また，社会的事象への興味・関心が高い生徒も多く，新聞やニュースから様々な情報を得ている。「現代社会の特色」についてコンセプトマップを作成させたところ，学習指導要領で示されている少子高齢化や情報化，グローバル化を始め，さらに具体的に AI や超スマート社会などのことばを挙げている生徒も多くみられた。これは総合的な学習の時間の学習の影響だと思われる。

公民的分野の導入として位置付けられる本単元の学習を通して，公民的分野の学習の見通しをもたせるとともに，生徒の興味・関心をもとに学習課題を設定し追究させ，断片的な事実的知識を概念的知識へ，そして，「使える」知識へと高めさせていきたい。

（２）　教材観

本単元は，前述した通り公民的分野の導入として位置付けられている。公民的分野の学習では，小学校社会科における**社会的事象の見方・考え方**や**地理的な見方・考え方**，**歴史的な見方・考え方**を必要に応じて組み合わせて用いることが示されている。これらの見方・考え方をもとに，公民的分野では，**現代社会の見方・考え方（社会的事象を，政治，法，経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え，よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること**）を働かせながら学習を展開していくことになる。

現代社会は，情報社会（Society 4.0）から超スマート社会（Society5.0）へ加速度的に変化しており，AI やビッグデータ，IoT を活用し，サイバー空間とフィジカル空間（現実）を融合させることによって，人間中心の社会の実現が目指されている。情報化の進展は予想が出来ないほどのスピードで進み，生徒が大人になった時に迎えるであろう社会変化は誰にも予測が出来ないのが現状である。

学習指導要領解説社会編では，**思考力・判断力・表現力等**を身に付けさせるために，「**生活における変化などの具体的事例を取り上げ，（中略）進化した人工知能が様々な判断を行ったり（中略）する時代の到来が，社会や生活を大きく変えていくとの予測がなされていることを踏まえ，現在と将来の政治，経済，国際関係に与える影響を考察し，表現できるようにすること**」と例示されている。このことから，生徒にとって身近かつ，現代社会の特色の一つである，情報化に焦点を当てて追究させることを通して，その特色をおさえさせていきたい。

情報化の進展にともなって必要なスキルの一つが，新聞やテレビが主流であった時代のメディアリテラシーではなく，誰もが情報の受信者にも発信者にもなれる時代のメディアリテラシーだと考える。**メディアリテラシー**を，**①メディアに対する知識**，**②クリティカルシンキング**（物事を批判的に分析して最適な判断をする能力），**③デジタルリテラシー**（デジタルツールを使いこなす能力）からなる複合的なスキルと捉え（笹原 2018），①・②について主に取り扱う（③については教科等横断的な学習で）。

新型コロナウイルスの流行にともなうデマ情報や，アメリカ大統領選挙でフェイクニュースが拡散したことなどは記憶に新しく，「情報」が政治や経済，国際関係にまで広く影響を及ぼしている。メディアリテラシーはスキルであることから，繰り返し見方・考え方を働かせてトレーニングすることで身に付くものであると考える。パフォーマンス課題を単元に位置付け，その解決過程で見方・考え方を働かせながら追究させていく。そして，以後の政治や経済，国際社会の学習へとつなげていきたい。

（３） 教科研究との関わり

研究の視点１　「問いをつなぐ」ことを意識した批判的思考力を高める学習プロセス

「批判的思考のプロセス」（**教科論【図】**）を本単元に位置付けると，１・２時間目は単元を貫く問いやパフォーマンス課題，ルーブリックをもとに，単元全体の「**①問いをもつ**」（**教科論【表】**）段階，３時間目以降が「**②問いを深め**」る段階である。４時間目には個人追究課題を設定させ，その課題について５時間目以降に資料を収集させたりまとめさせたりして，「**②問いを深め**」させていく。７時間目を「**③問いをつなぐ**」段階と位置づけ，「**ア 全体構造を把握する**」ことや，相互評価や自己評価を通して「**イ 学習成果が転移・応用可能かどうか考え**」させて問題解決に向かわせていきたい。

研究の視点２　学びの自覚化を促すための形成的評価

形成的評価を有効に機能させるために，学習前の考え（**「情報化が進展するなかで，情報を発信したり，受け取ったりするときに気を付けることは何か」**）を OPP シートに記述させる。学習前のレディネスを把握したうえで，毎時の目標に対する到達度合いを質的，あるいは量的に示して，改善の方策を具体的にフィードバックしていく。

石岡（2015）は，知識には階層があり，「**知識の獲得と定着（知っている・できる）**」，「**知識の意味理解と洗練（わかる）**」，「**知識の有意味な使用と創造（使える）**」の質的なレベルがあることを示していて，「使える」知識を見取るためには「**真正の文脈における活動や作品に基づく評価**」が必要であるとしている。そこで，西岡（2016）が示す，「**パフォーマンス課題のシナリオに盛り込むべき６要素（目的・役割・相手・状況・作品・観点）**」を基にパフォーマンス課題を設定するとともに，ルーブリックを示す。

また，パフォーマンス課題に取り組むにあたっては，１年時に取り組んだ自身のパフォーマンス課題や次の取り組みに向けた振り返りを確認させ，取り組みに向けた目標や見通しをしっかりともたせる。

７時間目の「**学習としての評価**」（二宮 2015）の場面では，パフォーマンス課題で作成したレポートを相互評価させる。そのなかで，他者のレポートの良い点や改善点を考えさせたり，単元の学習過程を振り返らせたり，学習前後の考えの変容を自覚させたりすることで，自身の手で学習改善の方策を獲得させ，学習を調整したり，課題に粘り強く取り組んだりする態度や，メタ認知能力の育成をねらっていく。その変容を，主体的に学習に取り組む態度の見取りとして活用する計画である。

研究の視点３　社会科における情報や情報通信技術の効果的な活用

平成 28 年に教育課程部会情報ワーキンググループが示した，「**各教科等における情報活用能力の育成改善・充実のイメージ**」として，社会科では「**社会における情報化の意味や影響について理解すること**」が求められたこと，令和２年に文部科学省等が公表した，「**『未来の学び』構築パッケージ**」においても「**『１人１台端末・高速通信環境』を生かした学びの変容イメージ**」として，「**検索サイトを用いて，授業テーマに応じて一人一人が様々な文章や動画を収集し，情報の真贋を判断し，整理する**」ことが求められていることを踏まえ，単元を構想していく。

以上の**研究の視点**をもとに単元を構想し，以下に示す資質・能力の育成を目指すことで，人間の強みを育むことに寄与していきたい。

３　単元の目標

- 現代社会の特色について理解を深め，諸資料からその情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 **【知識及び技能】**
- 現代社会の特色を多面的・多角的に考察したり，公正に判断したり，思考・判断したことを説明したりできる。 **【思考力・判断力・表現力等】**
- 他者との対話など異なる視点からの考えを聴きあったり，社会的事象に関心をもち，問題を発見したり，考察したり，解決策を考えたりすることができる。 **【学びに向かう力，人間性等】**

４　単元計画

（１） 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代日本の特色として少子高齢化，情報化，グローバル化などが見られることについて理解している。	少子高齢化，情報化，グローバル化などが現在と将来の政治，経済，国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し，表現している。	現代社会の特色について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

（２） 指導と評価の計画　※〇「評定に用いる評価」，●「学習改善につなげる評価」→国研の表記

時	・働かせたい見方・考え方　・学習課題　・学習内容　◆指導の留意点	評価の観点 知技	思判表	態度	見取りの視点【評価方法】
単元を貫く問い　現代社会にはどのような特色があるのか					
1	・現代社会の特色を想起し，コンセプトマップを作成する。コンセプトマップをもとに少子高齢化，情報化，グローバル化，その他の４つの視点にグループ分けをする。 **グローバル化の進展で，私たちの生活や社会はどのように変化してきているのか。** ・グローバル化の特色を理解する。	●		●	現代社会の特色に関心をもち，主体的に追究しているか。グローバル化の特色を理解しているか。
2	**少子高齢化の進展で，私たちの生活や社会はどのように変化してきているのか。** ・少子高齢化の特色を理解する。 ・パフォーマンス課題とルーブリックを確認し，OPP シートに学習前の考え（**情報化が進展するなかで，情報を発信したり，受け取ったりするときに気を付けることは何か**）を記述する。	●			少子高齢化の特色を理解しているか。
	◆パフォーマンス課題 シンギュラリティを迎えた 2045 年，超スマート社会と呼ばれる人間中心の社会が実現しました。しかし，社会では情報があふれ，フェイクニュースやデマも散見されています。あなたは，盛岡日報で情報の真偽を確かめるファクトチェッカーの責任者です。盛岡日報では，購読者がフェイクニュースやデマに惑わされないように，その呼びかけをする全面広告を出すことになり，あなたは編集長からその全面広告の作成を任されました。具体的に一つフェイクニュースやデマを取り上げ，それが政治や経済，国際関係にどのような影響を与えたのか，そして，その事実を教訓にして，「情報を発信したり，受け取ったりするときに気を付けること」を購読者に訴えるかける全面広告を，Ａ４一枚にまとめて作成してください。最後に，各部のデスクが集まる編成会議で，作成の意図を３分間で説明して，編集長から掲載の決裁をもらってください。				
	◆ルーブリック A：Ｂの評価項目を満たしつつ，２つ以上の点について，とくに優れていると判断されるものを含んでいるもの。 B：以下の４つの評価項目について，おおむね満たしていると判断されるもの。 ① **具体的な事実とその影響が挙げられているものである。**　② **地理や歴史での学習が生かされているものである。** ③ **自分の考えを主張しているものである。**　④ **要点がまとめられていて購読者に伝わりやすいものである。** C：Ｂの評価項目について，とくに不十分と判断されるものが含まれていたり，全体的に不十分と判断されたりするもの。				
3	**情報化の進展で，私たちの生活や社会はどのように変化してきているのか。** ・**視点１**噂の公式，**視点２**ソーシャルメディアにおける，エコーチェンバーやフィルターバブルの仕組み，**視点３**フェイクニュースやデマのタイプ，**視点４**ファクトチェックの意義や仕組みを理解する。（**①メディアに対する知識**に関する学習）	●			情報化の特色を理解しているか。
4	**どのようなフェイクニュースやデマがあるか調べよう。** ・フェイクニュースやデマを iPad を使って調べて，視点３の６つのタイプに分類する。 ・**個人追究課題**（パフォーマンス課題で取り上げるもの）を決める。		●	●	主体的に追究しているか。
5 6	・単元のパフォーマンス課題に取り組む。（**②クリティカルシンキング**に関する学習） ◆**政治**，**経済**，**国際関係**の視点（見方）に着目して捉えさせる。 ◆**よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断** ◆実力を正確に評価するために授業時間内のみの取り組みとする。 ◆教科書，資料集，地図帳など手元にあるもの全てと iPad を使用してよいこととする。 ◆過去のパフォーマンス課題や振り返りを返却し，取り組みの目標や見通しをもたせる。		●	●	現代社会の特色に関心をもち，主体的に追究しているか。
7 本時	**編集長から掲載の決裁をもらおう。** ・発表と相互評価（学習としての評価）及び自己評価 ・付箋に採用理由（良いと思った点）や訂正箇所（改善点）を記述して相手に伝える。 ・「**情報化が進展するなかで，情報を発信したり，受け取ったりするときに気を付けることは何か**」について学習後の考えを書く。 ・「**学習前と学習後を比べてみて，考えが変わったか，変わったとしたらなぜか，次回レポートを作成する際に何に気を付ければよいか**」記述し，単元の学習全体を振り返る。		○	○	個人追究課題を多面的・多角的に考察し，表現しているか。粘り強く課題に取り組み，次の学習に向けて自らの学習を調整しているか。【OPP シート】【パフォーマンス課題】
8	◆教師による総括的評価（改善の方策や，さらなる追求の視点を具体的に示す） ・レポートの相互評価を通して生まれた新たな疑問や，教師からのフィードバックで示した追究の視点を参考に，iPad を使用して個人の疑問を解決して，考えをさらに深める。		●	●	主体的に追究しているか。

※小学校社会科における**社会的事象の見方・考え方**や**地理的な見方・考え方**，**歴史的な見方・考え方**を必要に応じて組み合わせて用いるように指導・フィードバックしていく。

5　本時について

（1）　主題　　レポートを相互評価し，単元の学習を振り返る

（2）　評価規準

・　粘り強く課題に取り組み，次の学習に向けて自らの学習を調整している。**【主体的に学習に取り組む態度】**

（・　個人追究課題を多面的・多角的に考察し，表現している。**【思考・判断・表現】**）

→授業後に教師がレポートの内容を総括的評価し，改善の方策や，さらなる追求の視点をフィードバックする。

（3）　授業構想

単元のまとめの１時間である。これまで生徒は，小学校社会科における社会的事象の見方・考え方や地理的な見方・考え方，歴史的な見方・考え方を働かせながらパフォーマンス課題に取り組んできた。それを土台とし，フェイクニュースやデマが**政治**や**経済**，**国際関係（見方）**に与える影響を考察し，情報化が進む社会でどのように行動していくべきか（**選択・判断＝考え方**）を考えることを通して，公民的分野における現代社会の見方・考え方の基礎を養ってきたところである。本時は，作成したレポートを生徒に相互評価させることで，評価活動に生徒を参加させていく。この活動は地理的分野や歴史的分野でも行ってきたことであり，繰り返し行うことで評価規準を生徒間や教師とで共有し，学習改善の方策を生徒自身の手で獲得させてきた。

相互評価後に，単元の学習前と同じ問いに対して記述することで，自己の変容を自覚させ，次の学習意欲の向上につなげさせていきたい。また，最後に単元全体の学習を振り返らせ，主体的に学習に取り組む態度を見取る計画である。

（4）　本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応や提示する資料等	時間 (分)	評価規準および評価 ・指導の留意点　○「評定に用いる評価」
導入	1　本時の流れと学習課題、評価の視点を確認する。	10	
	編集長から掲載の決裁をもらおう。		
展開	2　相互評価・自己評価　26 分 ・相互評価（４人グループ）　発表２分＋評価１分 30 秒 ・自己評価　４分	30	○ 個人追究課題を多面的・多角的に考察し，表現している。【思考・判断・表現】 →授業後にフィードバック
	3　全体共有（Aの特徴がみられる代表的なもの）　４分 ・２分×２人		・ 発表生徒はあらかじめ教師が決め，一般化を図る。
終結	4　「情報化が進展するなかで，情報を発信したり，受け取ったりするときに気を付けることは何か」		・ OPP シートに記述させる。
	5　「学習前と学習後を比べてみて，考えが変わったか，変わったとしたらなぜか，次回レポートを作成する際に何に気を付ければよいか」 ・個人記述　７分　交流　３分	10	○ 粘り強く課題に取り組み，次の学習に向けて自らの学習を調整している。【主体的に学習に取り組む態度】

6　参考文献

西岡加奈恵他（2015）『新しい教育評価入門 人を育てる評価のために』有斐閣

西岡加奈恵（2016）『教科と総合学習のカリキュラム設計 パフォーマンス評価をどう活かすか』図書文化

笹原和俊（2018）『フェイクニュースを科学する　拡散するデマ，陰謀論，プロパガンダのしくみ』化学同人

立岩陽一郎,楊井人文（2018）『ファクトチェックとは何か』岩波書店

堀哲夫（2019）『新訂 一枚ポートフォリオ評価 OPPA』東洋館出版社

参観される先生方へ

本日のグループ研，よろしくお願いいたします。

「主体的に学習に取り組む態度」について，生徒の成果物や記述からどうすれば見取れるかを考えながら単元を構想しました。以下，(1)は本校社会科が目指していること，(2)・(3)は『**「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料**』で示されていることで，網掛け部分は，指導案に書いてある本単元での手立ての概要をまとめました。

(1) 社会科で育成を目指す資質・能力

	思考力等	協調性等	主体性等
資質能力	表面的事象にとらわれず，社会的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に事象をとらえ本質を見抜く批判的思考力	他者との対話など異なる視点からの考えを聴き合い，自分の考えを再構築したり合意形成を図ったりする力	実社会およびそこに生起している社会的事象に関心を持ち，問題を発見したり，考察したり，解決策を考えたりするなど課題の解決に関与する力
本単元での手立て	生徒は，フェイクニュースやデマの存在は知っているが，時として，それらが政治や経済，国際関係(見方)に影響を与えているということは，見えていない。パフォーマンス課題を通して，その影響を考察させる。	評価活動に生徒を参加させる(レポートの相互評価)。そのなかで自己の考えだけではなく，他者の考えにも触れ，それを踏まえて学習後の考えを記述させることで，自己の変容を自覚させる。	パフォーマンス課題で取り上げる個人追究課題を，それぞれの興味・関心をもとに決めさせる(問題発見)。これまでのパフォーマンス課題の振り返りをもとに個人目標を設定させる。取り組み後にその振り返りを行うことで課題解決に向けての力を養わせる。

(2)「主体的に学習に取り組む態度」の評価を行う際の留意点

示されている視点	本単元での手立て
1 生徒が見通しを立てる機会を設けること	OPP シートを活用し，単元の最初にパフォーマンス課題とルーブリックを提示する。
2 学習を振り返る機会を設けること	1年時のパフォーマンス課題への取り組みの振り返り(コピーを配付)をもとに目標設定。→単元全体の学習を振り返る時間の確保。
3 教師やほかの生徒による評価を伝えること	生徒による相互評価と教師による総括的評価。

(3)「2 学習を振り返る機会を設けること」について

示されている視点	本単元での手立て
① 「自らの学習を調整しようとしながら粘り強く取り組む状況」を表出させるための問いとしての例 →「**今後の学習に生かしたいこと**」	**「学習前と学習後を比べてみて，考えが変わったか，変わったとしたらなぜか，次回レポートを作成する際に何に気を付ければよいか」**
② 「十分満足できる」状況(A) →「生徒が実現している学習の状況が質的な高まりや深まりをもっていると判断されるときであり，多様な状況が考えられる。」	※本時は4学級中最初の授業です。 生徒の成果物や記述を分析していきたい。
③ 「おおむね満足できる」状況(B)の生徒の記述例 →□□さんの意見をもとに自分の考えを修正したところ，修正前よりよりよいものができた。次の学習でも，異なる考えを聞きながら自分の意見を考え直すことを大切にしたい。 →これからの社会の在り方を判断する際，持続可能性の点から考えることはとても大切だと分かった。これから，自分の子供たちの世代のことも考えて判断していきたい。	※変容を自覚させたり見取ったりするための手立てについてより良い方法を模索したい。

参考 社会科における見方・考え方について

	地理的分野	歴史的分野	公民的分野
見方	位置や分布，相互依存関係，一般的共通性，地方的特殊性 などに着目して捉える。	時系列，推移，比較，つながり(背景，原因，結果，影響) などに着目して捉える。	政治，法，経済，国際関係 などに着目して捉える。
考え方	人間の営みと関連付ける。	類似や差異などを明確にする。因果関係などで関連付ける。	よりよい社会の構築に向けて，課題解決のための選択・判断に資す

			る概念や理論などと関連付ける。